

令和5年 サイバー空間の脅威情勢

脅威概況

令和5年におけるサイバー空間をめぐる脅威については、ランサムウェア被害が依然として高水準で推移するとともに、クレジットカード不正利用被害が急増し、インターネットバンキングに係る不正送金被害が過去最多となるなど、極めて深刻な情勢が続いております。

サイバー空間の脅威情勢

①不正アクセス等が多数発生

行政機関、学術研究機関、民間企業等に対する不正アクセスが確認されたほか、特定の事業者等に対する標的型メール攻撃が確認されています。

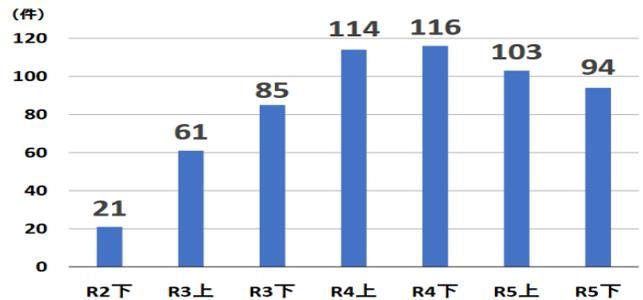
②ネットバンクに係る不正送金被害は過去最多

全国のインターネットバンキングに係る不正送金被害は、発生件数、被害総額ともに過去最多（5,578件、約87.3億円）となっています。



③ランサムウェア被害は高水準

全国のランサムウェア被害件数は197件と高い水準を推移しており、規模別にみると中小企業が52%を占め、業種別では製造業67件(34%)、卸売・小売業33件(17%)、サービス業27件(14%)であり、規模・業種に問わず被害が発生しております。



「令和5年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」

https://www.npa.go.jp/publications/statistics/cybersecurity/data/R5/R05_cyber_jousei.pdf

